

(エストパークにて)

教師生活 43 年間を終えられて、今の心境は？

辞めて暇になると思ったが、辞めて1年足らずでこれ(エストパーク)が完成しました。昨年の今頃は、夢だけで現実味が無かったです。。

突然、現実的になった何かきっかけがありましたか？

(作りたい)夢はずっとあったが、本来臆病なんで、考えて、考えて、ただやろうと決めたら絶対やる！決めるまでに時間がかかる。(何事をやるにしても)自分で苦しんで自分で決断する。相談できる人がずっといなかった。

ただ今回、(昨年)11月に toto の助成金受けるかどうか悩んでたときにある方に相談したら、自分のことを何も知らない初対面の人でしたが、「あなたには夢がありますね。その夢が来年(昨年11月のこと)叶う」と言われた。“不安”と言えば、「先生の夢を今か今かと待っている教え子がいる。その教え子が集まってくるから、そういう(集まれる)場所を作ってあげなさい」と。それが自分の居場所になり、ふるさとになる。今まで、福崎高、琴丘高、津田 SC など個々の団体を一箇所にまとまれる場所を作ろうと考えていて、今に至った。教師辞めたら暇になると思ったが『(多くの)人との出会いがある』と。その言葉通り、多くの方との新たな出会いがあった。その中に、(当機構理事長の)南都さんや、新井さん(姫路シーサイドゴルフ社長)との出会いがあった。今まで役所や行政に対してあまりいい印象を持っていなかった。ずっとグラウンド建設を行政に申請してきたが、前例が無いとか、何故サッカーなのかとことごとく断られた。では、優勝したらいいと助言され、優勝(アマチュア日本一)した。結果を出せばいいと考え、結果を出した結果、妬み、僻みが生まれるだけだった。仲間が減っていった。夢の実現のためにがむしゃらに走ってきて、結果を出して、ふり返ったら仲間との距離感が生じた。あれ？って。エストレラを設立するときにとくに感じた。姫路のサッカーと一緒にやってきた仲間が『樽本、人を選んでも』って。(人材育成の中で)底辺の子を育て上げるのは勿論のこと、上の子も育てていきたいとずっと思っている。そんなシステムは姫路にはなかった。仲間と決別した形でエストレラを作った。そんな中でエストレラが活躍していく。周囲の僻みを勝手に感じた。誰が直接というわけでもない、自分が勝手に思っているだけ。

そんな中いろいろやってきて、やっと現実味が沸いてきた時に今更なんで行政が出てくるってなるでしょ？でも、『これから出会うさまざまな人は、一緒に(夢の実現の為に協力)

する人たちだから、その人たちを受け入れよう』ってなった。今まで教師と言う狭い枠組みしか知らなかった自分がこうやって人と出会う方法を知っていった。今までの性格なら絶対会わないであろう行政サイドの人間と会う、驚きですよね？

やってみないとわからないのに、やる前から諦めたり、前例が無いとか責任をとらないとか、自分は嫌なんです。極端な話、先生自体があまり好きじゃない。

では、どうして教師になろうと思われたのですか？

教師にだけはなりたくなかった。(きっかけなどあるのでは？)

生徒時代、自分が正しいと思ったことが認められなかった。今思えば、間違っていたかもしれないですが。。小さい時分学校に行けなかった状態があった。体が弱くて、運動会は出られないし、マラソン大会も嫌いな子でした。運動できない子ってみじめでしょ？先生って(運動できない子に)もう少し配慮するべき。そんな先生いないのかとずっと考えていました。

病弱で運動できない子が自分で努力して、トレーニングして朝走って、やっと普通の体になった。(スポーツを)観るのは好きだったので、将来はスポーツの新聞記者になりたかった。スポーツを応援する側で。。スポーツを観たり、勉強するのが大好きで、その方面の大学に行きたかったけど、7つ(試験に)落ちたんです。(教師時代に)進路指導で大学に1つ落ちて泣いてる子に『7つ落ちてから泣け!』って(笑)(7つ大学に落ちた)そこが自分の原点なんです。失敗なんてないと思っている。たまたま高校の先生で日体大出身の方がいて、(大学落ちて)浪人するんですって言ったら『お前指導者になったらええんちゃうか?』と。先生になれと言われていたら、多分断っていただろうけど、指導者になったら、って言葉が(良かったのかな)先生嫌ってたから。。子ども好きなことは分かってくれていたのだろう。。で、日体大行ったらそこはとんでもないところで次の日から逃げて帰りたくなるような地獄の大学でした、当時は(笑)。運動できない子が行く所じゃないんですよ。入る人は、全国の強豪ばかり、運動で名を馳せた人ばかり、オリンピック行くような子ばかりの中で、徒競走も出来ない子が行くところじゃないんですよ。何かのクラブに所属しないとイケなくて、たまたま寮の定員に空きがあったのが、サッカー部だった。

はじめてサッカーに出会ったのが大学ということですか？

サッカー部に入って、初めてボールを蹴った。。と言いたいところですが、(日体大では)1年間ボールに触ることが出来なかったんです。5時半起きてグラウンド整備、食事当番、先輩の背中流したり等々雑用で1年間が終わりました。で、2年生になった時に雑用係終わっても、サッカー選手としては(今までサッカーしたこともない子は)役に立たないでしょ？1年生なら雑用あるけど、2年生になったら雑用出来ないんですよ、何にもやれることがな

い。で、辞めていくしかなかった。それで大学のサッカー人生は終了です。

(自分のサッカー部監督人生において) グランド整備が出来て、モノがきれいに並んで、きちっとやるってことは、そこ(大学サッカー部の1年間)で培った。だから、自分はベンチにいる子、(試合に)出られない子、雑用する子が大好きなんです。サッカー上手いやつなんぼのものや!とってます。自分の(サッカー)スタイルは“人づくり”なんです。

サッカー未経験?のままで、どういった経緯で監督をやっていたと?

飾磨小学校が分かれて津田小学校が出来、3年たって小学校で何かしようとなって、スポーツ少年団の中で自分も何か携わりたいと考えた。当時全く人気の無かったサッカーではあったが元日体大サッカー部?の肩書き(笑)もあり、グラウンドで走り回るのも楽しいかなと。。。で、『やります!』手を挙げた。やってくださいではなく、させてください!と。子どもを集めてサッカーをする。これが、津田 SC の始まりです。40人からのスタート!その後姫路サッカー協会の総会において自己紹介する場で、『姫路はサッカー不毛の地です。が、3年後に全国大会に行きます!』と言ってしまったんです。

その時『あれ、誰やねん?』ってなるでしょ?『誰か知らん、素人らしいわ』で、今にみとれ~となり、実際3年後決勝までいったんです。40人はサッカー初心者ですよ。決勝行った時も、自分1人で電車に乗って引率しました。会場の応援席には誰一人居なかった。対戦相手チームは大応援団でしたが、自分は『保護者は呼ぶな』って言ってたので。。。“子どものサッカーに親が出てくるな!”ってタイプなんです。『俺が1人でやる!』って。後で聞いたら、(保護者は)みんな陰でこっそり見に来てて応援していたらしい(笑)悪いことしたなって思います。

楽しそうですね、苦労などありましたか?

ないです。子どもといていろいろ楽しいんです。苦労なんてひとつもなかった。その子が今、エスト(※エストレラの略称、以後こういう言い方をされます)や津田 SC の指導者になってくれています。当時その子たちが強くなっていき、自分もこのまま終わりたくないと思って、転勤先の福崎高に来い!って呼んだんです。それが、福崎高のサッカー部のはじまりなんです。でチーム作って、高校の総会でまた、『5年後に全国行きたい』と言ってしまいました。また、“あれ誰やねん?”状態(笑)。3年後に西播でタイトル獲って、6年後に決勝までいきました。そこから姫路各地から他の指導者が福崎高に選手を送り込んでくれました。当初津田 SC のスタッフは全部福崎高の教え子なんです。夢の循環なんです。自分が子どもを教える、その子が社会人になって、全国で活躍する、でスタッフで地元に戻ってくる、結婚する、28組仲人(やって)、子供ができる、その子がまた津田 SC やエストに入ってくる、またその孫が・・・そうやって循環していく。自分の思いを伝える、伝

わった子がまたその子に伝える。サッカーって、人って、エエもんや！って。**(うまく循環した理由って何だと思われますか?)**サッカー(の技術)を知らなかったことが強み！いい指導をしようとか、自分がどれだけすごい監督かなんて思ったら子どもは感じる。事実とか結果とかは二の次、三の次。子ども自身が楽しいと思うことが大事、強くなることが大事ではない。

子どもに必ずかける言葉、譲れない思いなどありますか？

《人のために》ですね。『ずっと人のために生きていけ！』と。あとは《綺麗に生きろ》この二つ。綺麗にというのは挨拶もそう、心もそう、やはり人に好かれるためには綺麗でないといけない。感じがいいとか、会いたいなとかね。サッカー部でもカバンがきちんと並んでいるとか立ち止まって挨拶がきちんとできるとか。『あっ!』って相手に好感を持ってもらうことは大事です。サッカー上手くても「何？あいつ？」って思われたらプロになっても人気出ませんよね。そういったことを身体に染み込ませていけば、会社行っても、社会に出ても大丈夫、勉強出来なくてもいいんです。《人のために》。。チームってそういうこと、チームのためにいろいろ考えないといけない。自分は教え子全員に仕事をさせるんです。救護班とか選手全員のメモつけとか盛り上げ役とか、全員です。じゃないと試合出られないやつは嫌気してくる。世の中を支えているのはそういうやつだと思っている。昔ベンチにおったやつらが、今のエストの指導者や津田 SC のスタッフとなってサッカーに携わっている。すごい選手じゃないです。

自分の教え子は 1 回も試合に出たことがない子はいません。そして、そういう子をデキる子はいつも喜んで迎え入れる。公式戦初出場が引退試合って子もいます。でも、試合に出たからこそ、卒業しても集まれるんですよ。集まったら当時のつらい思い出話しかしないけど(笑)。無茶苦茶怒りましたし、今でいう体罰？も。。よく最後までクビにならずに教師生活が終えられたなど自分でも不思議です。(ずっと心の中で)体罰で訴えられたら辞めようと思っていました。つまり保護者の目からみて、『愛が無い』って思われたってことでしょ？体罰を、「愛情」ととるか「しごき」ととるかの違い。教え子を怒って、『帰れっ!』って言った後仕事終わって家に帰ったら、家の前でその子が正座して待ってたことが。。自分はまた『帰れっ!』って怒って言っても、うちの家族が『近所迷惑やから家に入り〜』って(笑)そんなこと度々です。また、合宿中、夜中の 3 時に起きて生徒たたき起こして『練習しよう!』ってこともあった。理不尽に思えるけど、あの頃は(生徒が自分を)受け入れてもらえることに喜びを感じていた。

外見はおだやかにみえますか？

1 日 2 時間しか寝ない日も多かった。朝、少年(チーム)やって高校行って、社会人(チー

ム) やって、レフリーやって、監督やって。。。何でもやれること全部やらしてもらって、夜中は練習メニュー等考えたり、(教え子との) 交換ノート見たり、ずっと自分を追い詰めながらやってきた結果、41歳で心臓が止まった。強度のストレスと睡眠不足が祟って。。。折しも琴丘高へ転勤が決まり、転任挨拶したその直後そのまま倒れた。ラッキーなことに隣が循環器病センターだった。福崎高で倒れてたら死んでいた(と思う)が、神様が救ってくれたなあって。。。『お前は1回死んだ人間やからもう1回違う人間になれって、もっと(サッカー指導の) 違うやり方があるだろう』と教えてくれたのだろうと。若い時って一生懸命してもうまくいかないでしょ？その当時の子は受け入れてくれたけど、自分として「それはダメ！」で、ずっと勉強したいと思っていたので審判の資格など取りにいった。サッカーの試合しても、ルール解らないでしょ？素人だから。。。相手チームの監督に『どこでサッカーされてた？』って聞かれたとき、『(サッカー) 素人です』って返したら、『やっぱね』って。“やっぱり”の言葉の裏に流れるものを感じてむちゃくちゃ腹立って、そこからレフリーの資格取った。

感じたことは、(自分が) 無知だということが子どもに影響するんだと。だからサッカーのコーチやトレーナーの資格取ったり、レフリーや教育カウンセラーの資格も。。。自分が勉強しないと、自分を頼ってくる教え子をどうしたらいいか分からなくなる。サッカー素人やから勉強できた。それで休むこと知らずにがむしゃらにやっていたら倒れて。。。

1年半リハビリしながら、“休め”ってことやなって思った。もう無理はできない。脈120を超えるような生活は出来ない、ペースメーカー入れて生き方変えないといけないなど、気持ちを《リセット》した。でもラッキーと思うのに1年半かかりました。その間、妬んだり僻んだり、『なんで俺なんやっ』って、夜中死ぬ夢見て飛び起きたり、発狂寸前でした。そこで出会ったのが(病院の) 臨床医で、自分の悩みを聞いてくれた。(今のように) 不登校の生徒とか子育て中のお母さんとか自閉症の子とかともっと関わり持ちたいと思ったのはその先生のおかげ。復帰して琴丘高に戻ったら、部員が4名しかいなかった。福崎高の殺される(位恐ろしい先生)という強烈な噂で、みんな辞めてたらしい(笑)。

琴丘高のサッカー部ってその頃は楽しくやるクラブで福崎高監督当時は何のイメージもないサッカー部。(今までの監督としての自分の) 実績なんかいらんのです。逆にその実績のせいで、病気になって0からのスタートむしろマイナスからのスタートになった。なので、部員が来るまで毎日1人でグラウンドの草引いて、整備してずっと待っていた。部員の勧誘にしてもサッカーやってる子は自分のこと知ってるから入らない(笑) 元卓球部とか運動したことない子らでやっと17名に。そこから3年後に西播でタイトル獲って、5年後に決勝行くぞ！って、また(笑)。

今までのようにしゃかりきにならなくても、身体がいうこときかなくても、やり方変えたらできる。福崎高と琴丘高の生徒って全く違う。琴丘高は『樽さ〜ん』って親しく寄ってくるけど、福崎高はそれを見て『なんてことを！』って。自分をみたら(怖くて) 逃げるんです(笑)。琴丘高でJリーガー5人輩出するんですが、もし僕が福崎高の教え方を

していたら、この5人はいなかったかもしれない。入院して考えを変えることができたのかなど。今まで自分が先頭切って頑張ってきたが、出来なくなって、自分が運動できなかった子供時代、原点に立ち返った。死という恐怖を体験したけど、あれがなければ生まれ変わることはなかったと思う。

指導者としての心構えなどありますか？

子どもって、みんなうまくなりたいとか、勝ちたいとか思っている。子どもも（サッカー）素人だったからこそおもしろいことがいっぱいあったと思う。いくらでも上手くなっていく。余計なことを考えない、ストレートに伸びる。でもどっかで、『無理や！』とか『出来ない！』とか考えるから、その考えを取り除く作業をする。

毎週子どもにサッカーノート付けさせて、ピッチで添削していた。ピッチでサッカー教えないんです。あとは子どもらの動きだけ見ておく。そして、『上手くなったな』（一言）それだけでいい。手取りやったら指導を待つんです。でもサッカーって何が起こるかわからないでしょ？自立なんです。ピッチ入ったら好きなようにやれ！と。戦う姿勢とか並び方とか、躰は教えていく。自分には（サッカーとはこういうものだという）イメージがない、サッカー素人やから。。。よく相手チームの監督には嫌われるんです、何してくるか予測がつかないから。。。強豪チームとの試合で、試合当日の天気予報では雨、1週間前からずっとグラウンドに水を撒いて練習した。で当日雨。その試合は勝った。。。何ていうエピソードも。こうやったら、こうなるって、出来ないことはない、『出来る！』って、その繰り返しです。また仲間で共有しあう、そのことも大事です。

綺麗に生きるっていうことと、人のために、チームのためっていうことを見ていてやれば、社会に出ても大丈夫だと信じてやってきた。

(3人の娘を持つ父親として)家庭でも同じ方針ですか？

次女の結婚式に両親への手紙の中で『私にはお父さんがいません。』感動のシーンでガクッとなりました。実の子どもの授業参観や体育祭など一度も見に行かなかったことがない。三女が琴丘高のサッカー部のマネージャーになったのは、『お父さんの生徒になりたいから』でした。でも教え子の愚痴とか娘から聞きたくなかったので、『3年間は親子の縁を切ろう』と約束した。3年間家で一言もしゃべらなかつたです。あれは物凄く辛かつたですけどね。。

でも結局、娘3人ともサッカーに何らかの形で関わっている。(親として)勝ったでしょ？娘たちは自分の人生見てくれて、三女はレフリーの資格取ってその(同じ)世界に入ってくれて今娘たちも自分の教え子に囲まれて生きている。“お父さん”の傍にいる生き方、それを判断したのは娘たちです。娘たちが『最低！』って判断したらダメな親になるが、傍で僕を支えてくれているのをみたら自分は大丈夫やなって。大好きな家族、教え子、その

嫁、その子どもらが集まる場所をここ（エストパーク）に作れた。**(樽本さんの奥様について
は?)**自分について一度も不満を言ったことがないから今までやってこれたし、娘たちもついてきてくれたと思う。嫁は子どもが大好き、人が大好きで、時間があれば琴丘高や姫路高や少年サッカーの試合今でも見に行きます。

自分が伝えてきたことは、何か人のためにしてあげたい、人の喜ぶ姿が見たい、それを子どもが見て、嫁さんも見て、教え子も見て、人がありがとうって（言ってくれる）それ以上何も要りません。卒業しても会いたいとか、1年前『エスト（パーク）作りたい』って言ったら、『作りましょ！』って、多くの卒業生が『僕たちに何かできませんか？』って。。なんと幸せな43年間だったかと。。

指導者は教育者でなければいけない。先生って意味ではなく、やっぱり子どもを育てていかないと。。子どもって日本の未来だし、教育がないと国って廃れていくと思う。ちゃんとした大人が子どもに向き合わないとダメ。上手に教えるとかと違って、本気になってくれる人と出会わせたい。『日本代表とかどうやって育てたんですか？』とか言われるけど、『あいつらが勝手になったんや、(自分がしたことは)出来ないときに一緒におっただけや』としか言えない。子どもと一緒にいただけ、ただそれだけ。元日本代表の播戸竜二にはサッカーのこと3つくらいしか指導してない。まあ、すごいエピソードいっぱいありますけど。。『僕、香寺から来た播戸です。ガンバ大阪いきたいんですけど、どうしたらいいですか？』って（驚）『JRで行くんか？山電で行くんか？（笑）』ってはじめ冗談返した。あのね、どないゆうんやろね、こんな奴が世の中におるんか？って感じ、165.7cm、55kgって小さいんですけど。。高校の進路希望調査に、第一希望ガンバ大阪、第二希望ブラジル留学って書いてあった。“ふざけとんか”と思ってたら三者面談の時、『お母さんこれふざけとんですか？』って、そしたら母親が『私もそう思ってる』って。3年後本当にガンバ大阪にいった。だから、無理とかダメとか、大人が子どもを決めつけてはダメだと思っます。兎に角やってみんかい！言葉は悪いですが、試験受ける時でも落ちてええやん！やったらええやん！って。やり方を子どもに教えてやればいい。放っといてもやる子おるし、言わな出来へん子もおる、先生って、これを見極めてやったらええんでしょ？その見ることが自分の仕事です。

大勢の教え子一人ひとり見ることは難しいのでは？

1人ずつだと見過ぎるんです。これ、失敗する。言わなくていいことを言ってしまう。うち（のチーム）ね、きれいに走らせるんです。70人位ですが全員足音一つにして、前の子の頭見て、黙って隣の息遣い聞きながら、足並揃えて走らせる。『軍隊か?!』って言われるんですけど、違う（笑）一体感作りたいんです。で、70人走るでしょ？（その中に）あれっ？って思う子がいる。足がずれてるとか、下向いてるとか。。で、『なんかあったんか？』って聞いてやる。絶対何かあるんです。全体走ってるときにちょっと下向いてる子

見つけているだけ、一人だけ走ってたら、わからへんでしょ？70人の中に1人か2人変な子見つけて話しかけるだけ(行動に現れるものですか?)だって、その子のことずっとメモ書いて、ノート見て、いつもと違うことって分かります。そういったきちんとした裏付けの中で話しかける。【サッカーだより】っていうのを毎週出してるんです。新聞記者なりたかったでしょ？(笑)メモして、子どもの意見など聞いて書いてやる、嬉しいでしょ？その中に自分のことが書かれている。でもそれを書こうと思ったらまず“見た”こと書かないといけない。整理して、文章にして、また言葉にしてあげたら嘘偽りが無い。適当に言えば、生徒もまた適当になるから。。。 (小さいときからメモ魔?)エエ、原因なんだと思います？幼少時、体が弱く、あまり動けなかった、だったら何ができます？本読んだり、絵を描いたり、見たり、書いたり。。。今考えたらラッキーだったんです。4年生位から僕絵を描いてたんです。運動できなかつたから、母親が油絵を教えてくれた。だから何でも悪いことって無い、運動できなくても、徒競走ってビリでも次の組からしたら1番！(笑)だから、自分が運動できなかったことやサッカー素人ってことは何にもダメなことだとは思わない。

(自宅にて)

リビングにはたくさんの家族や教え子の活躍した記事や写真、ユニフォームや【サッカーだより】が所狭しと飾られていた。その中の新聞記事の切り抜きに

“試験 楽しんでください”

教育カウンセラーの資格を取ろうと、教師や監督を続けながら6年間勉強、いざ試験を受けようと思ったときに怖くなって受けずに帰ろうとした。よせばいいのに直前に勉強、そしたら内容思い出せへん、頭真っ白なんです。落ちたら格好悪いし、教え子にも会わず顔ないし。。。生徒にやったら『勝負せえ〜!』って言うのにな(笑)。たまたま不安な自分の気持ちを元教え子の播戸(当時現役Jリーガー)にメールしたら“試験のための試験じゃないでしょ？だから、試験楽しみましょう”って。(やられましたね?)だから、『お前は先生か?』って返した(笑)すごい子なんや、あの子は。楽しまなあかんって人生やから。。。 (彼にずっと楽しもうって教えてきたのでは?)だから入院する前はそうじゃなかった。入院して変わったから出会えた。もし、(自分が)以前のままなら彼のこと潰してたと思う。だから入院してよかったかなあと。。。人生すべてタイミングです。

BREAK TIME ~自宅リビングを見渡しながら~

『なんかね、ここ居たら、皆に囲まれているみたいで落ち着くんです。』

クラブチームで日本一になる、姫路でもやれる。Jリーガー5人作った、姫路でも出来る。特別なことしたわけではないんだけど。。頑張ればもっと出来るのに、もっと能力持っているのに、これぐらいでいいかなとか言い訳するんじゃなくて、そんな（一生懸命頑張っ
て最後は結果を出せる）子を育てたい。育てるには、一人一人育て方を変えていかないとダメ。また、（その子にとって）いい言葉になるかどうかは同じ言葉でも違う。今それ言っ
て欲しくないけど（ダメになる言葉）言う親おるんです。試合に負けて落ち込んでる子に
（本心はきっと違う筈ですが）『あんたが普段もっと練習してへんからPKはずしたんや』
とか、それ違うやんなあ、あったかいお風呂、好きなモン用意して食べさせて、次の日、『お
しかったな』。その一言でええんです。それで子どもは頑張ろう！って思う。傷口に塩塗り
つけるような指導する指導者もいる。ミスをつく、失敗をガンガン言って、子どものこと
縛ってしまう、だから好きなスポーツ好きじゃなくなる。指導者次第、だからせめて自分
の周囲だけでもそう（子どもに寄り添える指導者に）なって欲しいから勉強会してる。そ
れと、エストには障害のある子どももサッカーをしにやってくる。うち30人おったらトッ
プ10人は強化（選手）、10人は将来の育成（選手）、10人は養成じゃないけど、寄り添っ
てやろうって。障害があっても能力的には劣っていてもサッカーに来てくれるのだから、
さっきの話じゃないけど、運動できないからってそれだけじゃない。誰にでも可能性や才
能があるんです。

（樽本さんに『指導者になれ』って助言した先生は人を見る目があったのでは？）

たまたま、僕は運動出来ないからその分何かしようと思ってたんでしょうね。クラスで
少し浮いてるといふか変わっている子なんかの面倒見たり、寄り添ったのを感じてくれ
たんでしょう。運動出来てバリバリの日体大もいいけどって。。これ、自分が教師になっ
てからその先生に訊ねたら、『いつもお前（そういった子）気にしてくれとったやろ？』っ
て。（樽本さんも見てもらってた？）だから、見てやるって大事なんです。

自分はいろんな指導者に、（試合等終わった時）『うまくいったか？』って聞くんですけ
ど、思い通りにならなくても、『正解は、終わったときの子どもの顔やで！』って言うん
です。（子どもが）おもしろそうかどうかポイント。ひょっとしたら自分でうまくやった！
って思っても子どもが嫌な顔してたらそれダメなんです。一番に思うのは、子どもに寄り
添ってあげること。エストや津田SCのスタッフが言ってくれるんだけど子どもといること
によって救われるって。週何回かの練習時間子どもと関わっていただけで会社では味わえ
ない経験が出来るって。やっぱり（それを聞くと）嬉しい。子どもは純粋で可愛い。

姫路を人が住みやすいようにしたい。よく言われるんです、『何で姫路なんですか？』っ
て。姫路好きなんやね、でも嫌なこともあるから好きにしたいって。。やっぱり姫路に戻
って来てくれる場所とか作っていきたい。（姫路のどこが好きですか？）、ふあ〜とした所、
ぬるま湯に浸かった感じ？（笑）なんか言葉は汚いけど、冷たい言葉じゃない。でも（姫

路って) 止まってゆっくりしたい街ではない。通過点なんやろな、お城行って、書写山観て帰ってしまう。そう、姫路ってみんな出て行くやろ？姫路で(何かやろう) ってならへんから(何か続けていくのなら出ていく)。新幹線が何で姫路に止まるかって言ったら、行くんと違って出ていくためらしい(笑)。何にもないから。だから姫路を何とかしたいと思う。

やっぱり最後テーマは《人づくり》です。《人づくり》と(姫路に) 帰って来やすい《場所づくり》とそこで活躍できる《まちづくり》。エスト(パーク)でJリーガー育成したり、障害者はそこ行ったらいろいろ楽しめるとか。。僕の好きな言葉に『障害者が健常者の未来』。いつか僕らそうになっていくし、いつか歩けなくなるし、目も不自由になってくる。(障害者も健常者も) 誰もが活躍する場所を作る場所が(エストパークを作った)大塩だと思ってる。そういう場所を広げることも住みやすい《まちづくり》になると思う。皆健常者のことばかり考えてるけど、じゃあ出れずに、ずっと家の中にいる障害者ってどうしたらいいの？ってなるからどうやったらいいか考えて作ってあげればいい。そういったことをまちづくりさん(当機構のこと)が考えてくれたら有難い。**(障害者のためというか誰もが自由にスポーツ出来るためには何が必要になるか?)**。場所を提供することも大事。そこに行くための交通アクセスとか道路とか(の整備も必要)、そしてやはり情報の発信。住みよい《まちづくり》は、僕の最終的な仕事かなって思っています。将来人助けのために。。でも人助けて、結局自分も助けてもらうことなんだけど。。人が住みやすい《まち》にすることが自分にも住みやすい《まち》になる。人のことやけど自分のことになってくる。

(最終的な夢の理想形はありますか?)

理想は、自然の中で障害者と健常者の共存共栄。そこでみんなが遊んでいる姿、みんなが世代を超えて憩えて、頑張れて、みんながグラウンドの周りで応援して、グラウンド見たら全日本やJリーガー目指してるとか。。僕なんか40歳で心臓止まるなんか思ってなかった。なってみて初めて分かった、死の恐怖。それを活かさない手ってないよね？**(入院中の家族はどんな感じてましたか?)**もう強烈な言葉がある。僕が寝たきりで何も食べられない。その時嫁さんが娘3人と来てて、『今日お昼何する?』って話し合ってた。僕が流動食しか食べられないのに。。『お前らええ加減にせえ!』ってなるでしょ?そしたら嫁が、『だってこうやってパパとご飯食べるのここしかないもん』って。その時僕初めて家族に気付いた。これはあかん!って。嫁にしたら何となく言った言葉なんやろうけど。。**(心の声では?)**そやね、こうやって『揃ってご飯食べるのここしかない』って言われた時、家族で飯食った記憶がない。朝5時半に起きて、夜の8、9時帰宅、娘たちは寝てしまってる。土日になったらどっか(サッカーの)遠征に行ってる。夏休みは練習等殆ど家に居ない。家族と一緒に過ごす時間を持ってなかったんです。**(家族の誕生日とか家族でお祝いしたのは?)**ない(汗)。よくよく聞いたら卒業生とか教え子とかが、娘の誕生日祝ってくれてた。死にかけた時、

罰が当たったと思いましたよ。もしこのまま死んでたら（家族に）何もしないで終わってたんだけだ。今はですね、三田のアウトレット、たまの妻とのデートコースです（照）。いろいろスポーツ用品見るのが楽しみ。**（妻孝行してるんですね？（笑））**はい、やっとな（笑）。今やらんと1人になってしまう（笑）やっぱり、何歳になっても変わりたい。人間死ぬ前日まで変われるって聞いたから、変わりたいと思えば何歳でも変われるんですよ。

（ご自身の性格ってどう思います？）

めちゃくちゃ小心者で、考えすぎる性格で、子どもと一緒にいたら変われる性格。恥ずかしいけど1人でおったら苦しくなる、余計なこと考えるから。。書いといて、1人じゃダメって（笑）1番好きなことは、人と一緒にいること、嫌いなことは1人になること。人といることが大好き！人が集まる場所がこの家（自宅）で、近所の娘の家が秘密基地。子どもたちがそこで遊べるようにいろんな工夫している。それをでっかくしたのが大塩（エストパーク）です。**（料理とかされます？）**大好き！俺のお好み焼きは最高（笑）好きな料理は、おでんとお好み焼き、人が美味しいって言うまで美味しい？って聞く（笑）**（1人で食べないものばかりですね？）**分かる？

《姫路に戻ってきて姫路で集まる場所を作ってあげる》それが自分の課題。老若男女、障害者、誰もが遊べる夢の場所を作っていきたい。これまとめ！

（今年の目標は何ですか？）

エストの社会人（チーム）が関西リーグ昇格目指してるんですが、監督している子が急に東京に転勤。スタッフ集めて『次どうしようか？』ってなった時に、みんな神妙な顔してるから、『どうしたん？』って聞いたら『樽さんに監督してほしい』って。聞いたらもう一回先生と高校生の時みたいに戦って、自分たちを鍛え直したいと。グラウンド完成してこれから芯のあるチームを作って夢を叶えたいと言われた。『よ～し、やるか！』って、**（スイッチ入りました？）**教師辞めてから全く違う生活送ってきて一生懸命やってきたつもりけど、ぼっかり心に穴が開いてたんやね、多分。。『グラウンドで死にたい』って自分どこいった？って。**（第一線じゃない感覚？）**あった。帰ってきても明日の戦術考えたり、練習考えたり、それが抜けてしまっている。【サッカーだより】が今続いてないんです。今までとは違ういろんな人に出会ったのは良かったけど。。外身（グラウンド）出来て、今度は中身（選手育成）。『よし、やってやるか!!』43年間のノウハウを使って、選手を育てていこう！って。

“挑戦（チャレンジ）”、幸せなことです。67歳になって監督、すごいことです。でもやってほしいとってもらえることが嬉しい。まさか！って思いましたけどね。**（タイミングなんですね？）**そう、ずっとそのタイミングです。キーワードはそこかな、やりたくても（できなくなることもあるから）。。タイミングは大事にしないと。でもずっと動いていないと

タイミングってやって来ないんですよ！

（最後に、樽本さんにとってサッカーとは？）

《自由奔放やりたい放題》それがサッカー！！何でもこい！の自由なスポーツ、だからハマったのかも知れない。

**インタビュー中、熱い情熱を内に秘めておだやかにこやかに語っていただきました。
本当にありがとうございます。これからのご活躍を楽しみにしております。**

樽本氏やエストレラにご興味を持たれた方はこちらをあわせてご覧下さい。

NPO 法人スポーツクラブ エストレラ HP <http://www.himeji-estrela.com/>

エストレラ津田 SC（樽さんの部屋）HP <http://tsuda-sc.jp/category/room>